

(事後評価)

理系女性のキャリア加速プログラム

(実施期間：平成 21～25 年度)

実施機関：東京農工大学（総括責任者：松永 是）

プロジェクトの概要

女性未来育成機構において、毎年 3～4 名の新規養成女性研究者を、安定的な職(助教・准教授)として新規採用し、機構における一定の育成期間を経た後に各専攻に配置する。これにより、3 年間で 11 名(5 年間では 17 名)の安定的な女性教員の確保を可能とする。また、独自養成女性研究者は先駆的な取組みである“農工大式ポジティブアクション「1 プラス 1」”により、常勤女性教員(助教・准教授・教授)を毎年 2 名以上採用し、3 年間で 6 名以上(5 年間では 10 名以上)の女性研究者を独自に新規採用する。これらの取組により、5 年後には、農学・工学系の女性研究者総数が 50 名程度となり、平成 20 年度現在の既在籍女性研究者(26 名)に比して倍増とする計画である。女性未来育成機構は、キャリア支援(環境整備と支援)、キャリア加速(教育力向上プログラム)、キャリア開発(研究力向上プログラム)の 3 部門で構成し、教育力と研究力に秀でた質の高い女性研究者を育成する。キャリア加速部門では、メンター教員のサポートの下に実践講義・実習指導を実施し、独創性・即応性・持久性を習得する教育プログラムを行う。キャリア開発部門では、独自養成女性研究者および既在籍女性研究者も参画し、“女性の視点で考える「安全・安心・健康」”をテーマとする拠点研究を産学連携の下に実施して、既成概念の枠を超えた発想と課題提案型の立案力・研究力を兼ね備えた女性研究者を養成する。

(1) 評価結果

総合評価	目標達成度	女性研究者支援システム改革	取組の内容	実施体制	今後の進め方
S	a	s	s	s	a

総合評価：S（所期の計画を超えた取組が行われている）

(2) 評価コメント

女性限定教員公募の実施や、独自のポジティブアクション「1 プラス 1」により農学・工学系分野の女性教員比率が倍増し、上位職への昇進・採用についても着実に成果が出ている。また、女性未来育成機構を設置し、採用した女性研究者を支援、養成する体系的なシステムが確立されたことは高く評価できる。

- ・**目標達成度**：女性教員の採用数、工学・農学系分野の女性教員採用割合は目標を達成し、また、本事業とは別途に機関独自に採用した女性教員数も目標を大きく上回っており、評価できる。今後は、工学系分野における女性教員の採用と当該比率の向上を期待する。

- **女性研究者支援システム改革**：優れた女性教員を採用するためのシステム改革が効率的に機能し、独自のポジティブアクション「1プラス1」により、上位職階の女性教員数が増加した。また、女性未来育成機構に設置した3部門による環境整備、研究力向上など多角的な女性研究者養成システムが構築されたことは高く評価できる。
- **取組の内容**：女性限定教員採用を人事計画に組み入れ、多くの応募者の中から優秀な女性教員を採用するとともに、女性未来育成機構において女性教員の教育力、研究力の向上と活躍促進のための環境整備を効果的に進めていることは高く評価できる。
- **実施体制**：学長直下の独立型組織である女性未来育成機構を中心とした全学的な体制が構築されており、外部評価委員会の設置、男性教員メンターによる男女共同参画の推進など、実施体制が充実しており、高く評価できる。
- **今後の進め方**：学長ビジョンとして、平成35年度末までの10年間は毎年度3～4名の女性教員を採用し、女性教員比率20%を達成する計画を立てている。また、女性未来育成機構の運営費を全学経費で措置し、補助期間終了後も引き続き従来の取組を継続することとしており、評価できる。今後は、当該取組を実施していく中で、女性教授の積極的な採用や優れた講師、准教授の上位職への登用により、機関における女性教授の人数が増加することを期待する。